

世界を知るの本

	しょめい	ちょしゃ	しゅっぱんしゃ	しゅっぱんねん	せいきゅうきごう	ないよう
低学年向け	ミルクこぼしちゃだめよ！	スティーヴン・デイヴィーズ/文 クリストファー・コー/絵 福本 友美子/訳	ほるぷ出版	2013年	エホン/コ	ペンタは、西アフリカのちいさなむらにすむおんなのこ。ペンタのおとうさんは、あめがふるきせつには、ヒツジたちをやまのうえのくさちでせわをします。あるひ、おとうさんにミルクをとどけるおかあさんにかわって、ペンタがとどけたいといひます。ミルクでいっぱいのおきなおわんをあたまにのせて、さあしゅっぱつです。
	アルプスのきょうだい	ゼリーナ・ヘンツ/文 アロイス・カリジェ/え 光吉 夏弥/やく	岩波書店	1954年	9-0/ヘン	スイスの山々では、夏のあいだ、牛たちにすずをつけて、まきばで草をたべさせます。そして、冬になるとすずをはずして牛たちを小屋の中に入れるのです。そして春まつりには男の子たちが、できるだけ大きなすずをもって村じゅうをねりあるきます。ウルスリも大きいすずを手に入れるために、ぼうけんへでかけます。
	太陽へとぶ矢 インディアンにつたわるおはなし	ジェラルド・マクダーモット/さく じんぐう てるお/やく	ほるぷ出版	1975年	エホン/マ	むかし、太陽の神は命の力を一本の矢にかえて、大地に向かってとばしました。その命の矢にあたったむすめは男の子をうみました。男の子はすすくそだちましたが、父親がいないことをひやかされ、かなしくなりました。そこで、男の子は父親をさがす旅に出ました。 インディアンの人々と太陽とのむすびつきがよくわかる絵本です。
	ラマレラ・生命の物語 クジラにいでむ船	小島 曠太郎/著 えがみ ともこ/著	ポプラ社	2004年	384	レンバタ島ラマレラ村では、プレダンという船でクジラ漁がおこなわれています。船は祖先からうけつがれてきました。新しく作りかえる時は、祖先の約束ごとどおりにおこないます。プレダンには設計図がありません。「アタ・モラ」とよばれる人がすべて覚えているのです。そして、村の人みんなで魂をこめてつくりあげていきます。
高学年向け	クララ 300年前にはじめてヨーロッパを旅したサイのはなし	エミリー・アーノルド・マッカーリー/作 よしい かずみ/訳	BL出版	2017年	エホン/マ	300年ほど前、クララと名付けられたサイがインドからオランダへやってきました。船長のヴァン・デル・メールが母親を亡くしみなしごとなったクララを友人から譲ってもらったのです。当時、サイはヨーロッパでまぼろしのけものといわれていました。本物のサイを見て喜んでもらいたい。そんな気持ちからクララと船長の長い旅が始まります。
	メサ・ヴェルデのひみつ 古代プエブロ人の岩窟住居	ゲイル・フェイ/著 ベンジャミン・R・クラハット/指導	六耀社	2015年	253	1882年、アメリカ合衆国コロラド州の南西部で岩でつくられた町が発見された。この町はコロンブスのアメリカ大陸発見以前に人々が住んでいたことがわかるものでした。そのころの暮し、またその子孫はどこへ行ってしまったのか。先住民の過去の生活を知ることのできる貴重なものとして、メサ・ヴェルデの遺跡はその謎を解き明かしています。
	九月姫とウグイス	サマセット・モーム/文 光吉 夏弥/やく 武井 武雄/え	岩波書店	1982年	9-0/モム	シャム(いまのタイ国)の王さまは姫たちにかわった名まえをおつけになりました。姫が4人のときは「春」「夏」「秋」「冬」。8人おうまれになると「一月」「二月」「三月」…「八月」。そしてさいごに「九月姫」がおできになります。そんなある日、九月姫のもとに美しい声で歌う一羽のウグイスがまいこんできます。

中 学 生 向 き	MONUMENTAL 世界のすごい建築	サラ・タヴェルニエ/作 アレクサンドル・ヴェルイユ/作 河野 彩/訳 加藤 耕一/監修	ポプラ社	2016年	520	いろいろな時代に作られた遺跡や建築物をたくさんの情報と洗練されたイラストで紹介しています。賞をとったもの、ユネスコ世界遺産に登録されたものに並んで、みなさんに身近な大阪の四天王寺もアジア地域で登場します。
	台所のメアリー・ポピンズ おはなしとお料理ノート	P.L.トラヴァース/作 メアリー・シェパード/絵 小宮 由/(おはなし)訳 アンダーソン 夏代/(料理) 訳	アノニマ・スタジオ	2014年	933/トラ	ハングス家には子どもが5人。両親が出かける一週間、メアリー・ポピンズがやってきます。ハングス夫人は家庭教師のメアリー・ポピンズにお料理ができるか心配です。でも、毎日子どもたちや友だち手伝ってくれて、大さわぎしながらデザートつきのお料理ができあがります。イギリスの伝統的な料理のレシピがたくさんのはっていますよ。
	シャクルトンの大漂流	ウィリアム・グリル/著 千葉 茂樹/訳	岩波書店	2016年	エホン/ク	アーネスト・シャクルトンがおこなった南極探検のお話です。最初は資金集めと隊員募集についてです5,000人の志願者から26人の男を選びました。69頭の犬も連れて行きます。船は頑丈な小型船エンデュアランス号。不屈の精神という意味の名前です。道具と物資を準備して、さあ出帆です。内容ごとに詳しい絵と説明が書かれています。